

路上工事に伴う規制時の 事故再発防止事例

国土交通省北陸地方整備局新潟国道事務所 工事施工管理官 やました のぶ お 山下 信雄

1. はじめに

新潟国道事務所は、一般国道7号、8号、49号、113号、116号の5路線あわせて、約284kmの幹線国道の調査計画、改築、維持管理を実施しています。

路上工事に伴う規制は主に夜間に実施されており、後続車が追突する事故が多く、昨年は夜間道路維持作業中の作業車に乗用車が後方より衝突し、死亡事故が発生しています。

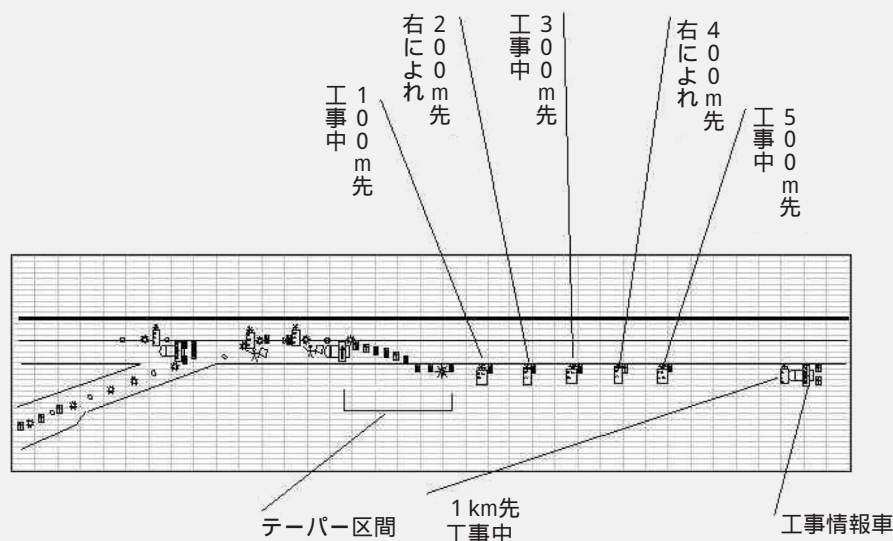
事故を全くなくすのは困難とは思いますが、い

くらかでもそれに近づけるべく、なお一層の安全対策への取り組みが求められています。

発生した事故を教訓に、創意工夫により同様な事故の再発防止を図った事例を紹介します。

2. 多車線バイパスにおける路面維持作業での規制方法

規制は、図—1のように車線減少開始地点から1km、500m、400m、300m、200m、100m、先の地点に「工事中」「速度落とせ」「右によれ」等の工事看板を設置し矢印板により車線減少させるのを基本としています。



図—1



写真— 1

さらに、2 km 先から500m 先の区間の非常駐車帯、路肩、ゼブラ帯等を利用して写真— 1 のような工事情報車を設置しました。工事情報車は、規制車より明る過ぎず、工事看板より目立つような LED 式電光板を搭載したものを選定し、電光板は規制方法別に次のように設定しました。



写真— 2 標準の高輝度 LED 工事標識



写真— 3 フラッシュ増設後

規制方法

① 車線減少

「この先、工事中」「右(左)によってください」

② オフランプがあり、すべての車線の通行を考慮

「この先、工事中」「速度を落として下さい」「ランプ規制中」

③ ランプの通行止め

「この先、ランプ通行止め」

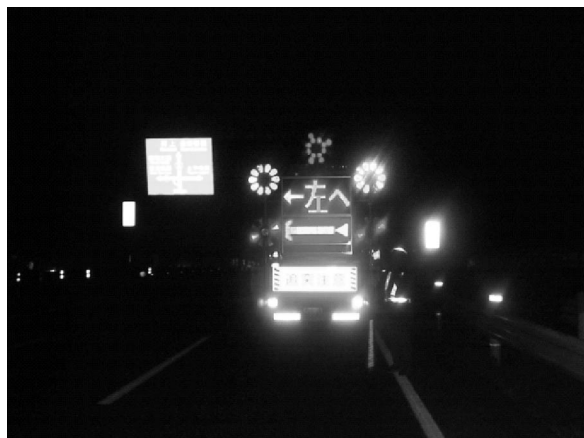
3. 誘導合図の視認性の向上

(1) 規制用標識車の改良

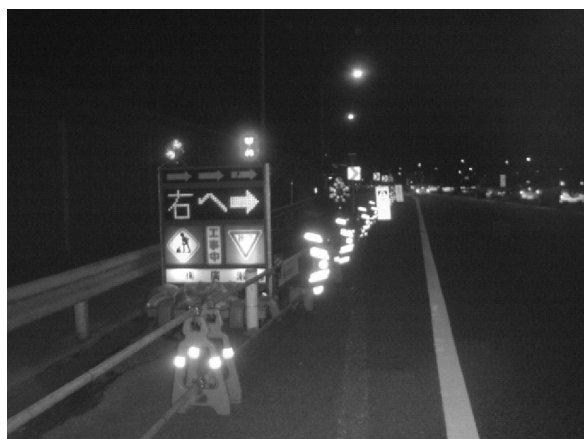
高輝度 LED 工事標識車にひまわり型 LED フラッシュ 2 基とキセノンランプ搭載型フラッシュ 2 基を増設 (写真— 2 ~ 4)。

(2) 高輝度 LED 等を使用した安全施設

写真— 5 , 6 に示す。



写真— 4 夜間標識車点灯状況



写真— 5 工事予告板、単管バリケード



写真—6 高輝度予告看板

4. 一般車両の規制内への進入防止 ——「ケツもち車」の配置——

「ケツもち車」とは、工事車両が規制内に進入する際、進入しようとする工事車両のすぐ後方に位置させ、LED表示等で後続車両に注意を促し、速度、車両距離を調整しながら工事車両を規

制内に進入させます（図—2）。

その後、一般車両が困惑しないように規制内に入らず、そのまま直進しながら一般車両を誘導するものです（図—3）。

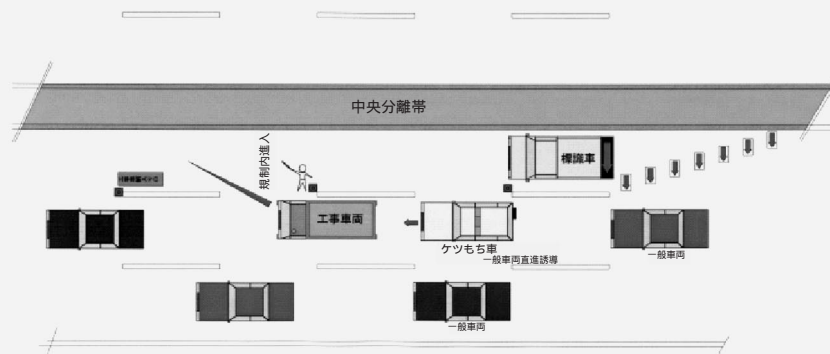
5. さいごに

路上工事に伴う規制時の事故再発防止に向けた、現場での創意工夫事例を紹介しましたが、これらの工夫により事故は減少しています。

今後も事故発生原因はどこにあるのか検証しながらさらなる工夫を実施していくことが重要と考えています。

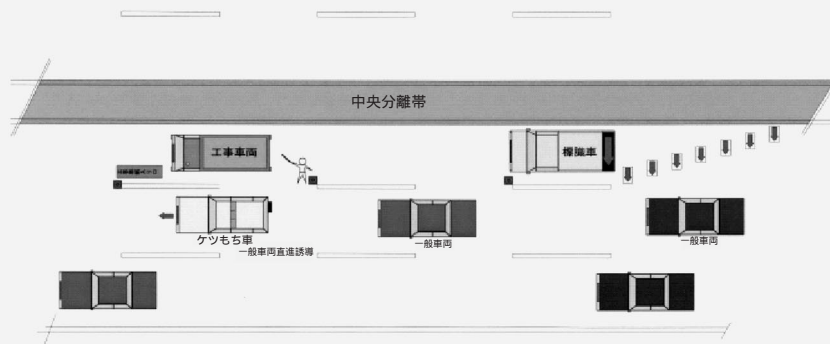
当事務所では請負者と事務所職員で構成された技術研究会活動があります、これらの活動を通してさらなる工夫を実施し事故撲滅を目指していきたいと思っています。

工事車両規制内進入図



図—2 後続車両との車間距離を調整

工事車両規制内進入図



図—3 工事車両が進入後そのまま直進